

クラブの過去 現在 未来

DJ 沖野修也



おきの・しゅうや 1967年
生まれ。DJ、作曲家、執筆
家。世界30カ国120都市で公
演経験あり。

クラブがディスコと決定的に違
う存在へと進化したきっかけは、
DJたちが聴衆の評価やブームに
なびくことなく、自分の好きな曲
でダンス・フロアをわかせたこ
とでした。

ダンス・ミュージックに革命を
もたらしたのは、フランス・グ
ラッソというDJが2枚のレコ
ードを繋ぐことを発明したこと
です。彼は60年代後半のNYで活動
し、自由な選曲で人々を魅しま
した。70年代後半から80年代初

頭、シカゴで活躍したフランキー
・ナックルズやロン・ハーディー
といったDJたちは、ダンス・フ
ロアでの再生を目的とした音楽
を生みました。それは“ダンスし
やすい”音楽の提供から、“ダンス
のために作られた”音楽の発表へ
の転換期でした。DJやミュージ
シャンが安い機材を使って人を踊
らせるための音楽を作り始めたの
です。こうして、「知らない音楽＝
最先端のダンス・ミュージック」
を聴きに行くために、人がクラブ



京都のディスコ・マハラジャ祇園(1990年)の様子。聴衆は
“知っている曲”で盛り上がりました

に足を運ぶことになるのでした。

一方、ロンドンでは、80年代中
期に空きビルや農場で許可なく行
なわれていた“ウェアハウス・パー
ティー”が大流行します。経済不況
の下でディスコの入場料を払えな
かった若者が開催していました。
その現象が既存のヒット曲を聴き
に着飾って遊びに行くディスコを
衰退させました。代わりにカジュ
アルな服装でダンス・ミュージッ
クを楽しむクラブ・カルチャーが
勃興(ぼっこう)します。

日本でも、ディスコの爆発的な
ブームと過度の聴衆への迎合は飽
和状態を迎えることとなり、80年
代後半に衰退の一途をたどりま
す。そしてディスコと入れ替わる

形で、クラブ・シーンが盛り上がっ
ていきます。ヒップ・ホップ、ハ
ウス、テクノといった最新の音楽
とともに、ヒップ・ホップの元ネ
タでもあるレア・グルーヴ(70年代
の黒人音楽)や踊れるジャズが新
しい時代のダンス・ミュージック
として再評価されるようになりま
した。今では、これらの音楽ジャン
ルに、ドラムン・ベースやダブ
・ステップといったイギリス発信
のダンス・ミュージックが加えら
れ、その全ての総称がクラブ・
ミュージックと呼ばれています。
そして、クラブ・ミュージックが
プレイされるクラブの全国的な広
がりやクラブ・シーンと認識され
ているのです。(続く)